

四万十市立具同小学校3年 四万十タイム（総合的な学習の時間）学習指導案

単元名「具同じまん～トンボ王国G o G o 大好き作戦～」

平成28年11月17日 指導者：村上真紀 今村潤弥 田渕香恵

1 単元設定の理由

(1) 単元について

本単元は、社会科の学習で行った校区探検で見つけた「具同じまん」の1つである「トンボ王国」を調べていく中で、その魅力を知り、自然を守る人々の気持ちを感じ、より多くの人に知ってもらおうとトンボ王国を地域住民にPRしていく活動である。これまでに子どもたちは、1年生の生活科の学習「生き物見つけ」、2年生の生活科の学習「ジャブ池体験」などを通して、トンボ王国とは深く関わってきている。

本校区内にあるトンボ王国は、世界初のとんぼ保護区であり、生息しているとんぼの種類は日本一である。トンボ以外にも、地域の川である四万十川に生息する魚を中心に、アカメ、ミヤコタナゴ、ヒナモロコなどの貴重種も多く飼育している。また、トンボ王国を設立したとんぼ研究家の杉村光俊氏は、小さい時からの夢を現実にした人であり、現在も「トンボと自然を考える会」の常務理事として活動を続けている。そんなトンボ王国について調べていくことで、自然を守る人々の思いを知り、子どもたちにとって身近な施設が、世界に誇れる素晴らしい場所や人であることに気付くであろう。その魅力を生で感じてもらうと、トンボ公園に招待し案内（ガイド）をする活動を通して、地域の自慢を語られる存在となり、地域を大切に作る心や態度を育成することができると思う。

(2) 育てようとする資質・能力及び態度について

本単元を通して特に大切にしたいことは、自分自身に関するものの「自分の生き方を考える力」、他者や社会との関わりに関するものの「社会と関わる力」である。

人口が減り活気がなくなりつつある中、地方創生など地方を盛り上げようとする動きがあり、地域の魅力を再発見し新たな形で情報発信していくことが求められている。しかし、その地域で生活している人々にとって、日常生活の中で身近にあるものが当たり前になり、その魅力に気づきにくい側面もある。そこで、この学習を通して、身近にある様々な魅力を再発見し、その魅力を地元の自慢として語ることができる子どもをつくらせたいと考えている。自慢は、他人に伝えたいものである。「地元のいいところ」で収まることなく、トンボ王国を知らない地域の人に、そして具同以外の地域の人に何とかして伝えたいという気持ちを高め、行動できる子どもを育てていきたい。さらには、県外や外国人などにも情報発信をしていきたいと感じるきっかけにもしていきたいと考えている。

(3) 児童について

本学年の児童は、素直で明るい児童が多い。やらなければいけないことは最後まできちんとやり、興味を持ったことをすぐに調べてきたりする児童も多い。また、ペアやグループ学習、行事などを通して、友だち・仲間を意識し、協力してさまざまな活動に取り組むことができるようになってきた。学年間での活動も多く、なかよく活動することができる。

1学期の総合の学習では、社会科とリンクさせて、「まちたんけん」をし、自分が住んでいる地区の自慢を見つけた。「家の人に聞いてもらいたい」「ポスターを見てもらいたい」「具同地区の自慢を知ってもらいたい」というめあてをもって自分たちで情報収集をし、整理しながら、国語科で学習したことを使って、グループでポスターにまとめた。そして、参観日で保護者に発表することができた。しかし、学習を進めていく中で、与えられた課題にはまじめに取り組むことができるが、自ら課題を

見つけたり多面的にみたりすることは、苦手な児童が多いことがわかった。また、情報を収集したり整理したりすることを友だち任せにする児童がいることや、地域の人に進んで関わるスキルや態度が十分とはいえないなどの現状がみえてきた。

(4) 指導について

① トンボ王国の魅力を発見するための情報収集、整理・分析

1学期の学習で、具同地区自慢の1つとして「トンボ王国」を調べることになった。最初は、生き物探しなどの体験を通して、子どもたち自身にトンボ王国の魅力を再発見させ、PRすることが決まった後は、トンボ王国の魅力を伝えるという目的を持って再度トンボ王国に行き調べ学習を始めていくようにする。トンボ王国に行ってもらえる、好きになってもらえるようにするには、どのようなことをアピールしていけばよいのか、思考ツールを活用し友だちと話し合いながら整理をしていく。しかし、1回見学しただけでは、知らない情報も多くその魅力を十分につかめたとはいえないであろう。そこで、「ガイドをするために、もっと調べたい」という意識を高めながら、繰り返しトンボ王国へ行くように仕組んでいく。情報収集を重ねながら、その都度新たな発見があり、より本質的な魅力へとつながっていくと考えている。

② 誰かに伝えたい、もっと伝えたいと行動できる子どもに

具同の自慢として取り上げたトンボ王国の魅力を知った子どもたちには、その魅力を誰かに伝えたいという気持ちを高め、行動できる子どもになってもらいたい。

そのために、トンボ王国はどれほどの認知度があるのかアンケートをとることにする。認知度は高いものの、「行ったことがありますか?」、「また行きたいですか」の質問に対し、「いいえ」と回答する人数が多いという結果に、トンボ王国の魅力を感じ取ったばかりの子どもたちは疑問を抱くであろう。その気持ちが、知らない人に伝えたい、みんなに行ってもらいたいという思いを引き出し、トンボ王国をPRしようと行動に移していくと考える。家族や身近な人、地域の人などに「トンボ王国に行ってもらいたい」、「自然の良さは、直接見てほしい」という子ども達の思いを価値づけながら、ポスター・リーフレット・ガイド等の様々なPR方法の中からガイドを選ばせていきたい。そして、トンボ王国でガイドを行い、直接話しながら伝えていく活動へとつなげていきたいと考えている。

ガイドという形で直接伝えていくことで、相手意識をしっかり持ちトンボ王国の魅力を伝えられるようになるだけでなく、来館者の反応から、話が伝わったのかどうか自己評価することもできる。来館者から感謝の言葉や笑顔をいただけたときには、トンボ王国の魅力を伝えることができた充実感を味わうことができるであろう。その時味わった気持ちは、もっと他の人にも伝えたいと意欲を高め、ガイドを繰り返す中で地域を大切に思う子どもへと成長させていくであろう。

2 単元の目標

- 「トンボ王国G o G o大好き大作戦」を成功させるための方法を考え、トンボ王国を見学したり調べたりしながら情報を集めたり表現したりしていくことができる。(学習方法)
- 中学生や施設の人、地域の人などとの関わりから、トンボ王国に対する思いや願いを感じ取り、具同自慢「トンボ王国」への思いを高め、これからどのように関わるか考えをもつことができる。
(自分自身)
- 友だちと語り合いながら、笑顔でガイドができるように協力し合うことができる。
(他者や社会との関わり)

3 単元の評価規準

視点	育てたい力	目指す子どもの姿
学習方法に関する こと	① 課題を設定する力	ア トンボ王国との体験的なかわりの中から興味や関心を持ち、課題意識を持って学習計画を立てようとしている。 イ トンボ王国の生き物探し体験や館内見学を楽しみ、振り返りの中で課題を設定しようとしている。
	② 情報を収集する力	ア トンボ王国見学で、施設の話やパンフレットや図鑑などで施設や自然の様子を調べ、情報を集めようとしている。
	③ 整理・分析する力	ア トンボ王国について、体験活動やアンケートのまとめをもとに、もっと多くの人に知ってもらうための方法や自分たちにできることを考えようとしている。
	④ まとめ・表現する力	ア ガイドブックをもとにガイドをし、中学生や地域の人、2年生にトンボ王国の自然の良さや、自然を守り育てる活動について伝えようとしている。
自分自身に関する こと	⑤ 目標を決め自ら意思決定する力	ア 体験活動やアンケートの集計分析、ガイド等の活動をふり振り返り、もっと多くの人にトンボ王国を知ってもらうために自分たちにできることを考えている。
	⑥ 自分の生き方を考える力	ア ガイドの活動を振り返り、トンボ王国など地域の魅力にさらに気づき、これからも伝えていこうとする思いを持っている。
他者や社会との関わりに関する こと	⑦ 他者と関わる力	ア ガイドを成功させるために、中学生やゲストティーチャーの考えやアドバイスを参考に話し合うことができる。
	⑧ 社会と関わる力	ア 「地域の人にガイドをしよう」をテーマに身近な人や地域の人にトンボ王国に来てもらう方法を考え、実践し、楽しみながらガイドを行っている。

4 単元計画（全50時間）

学 習 活 動	指導や支援のポイント	評価規準
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> トンボ王国へGo! (14時間) </div>		
○ トンボ王国について、知っていることを話し合う。 ○ トンボ王国で生き物探し体験と館内の見学をし、心に残った事を発表する。 ○ トンボ王国の認知度を身近な人にアンケートを取る。 ○ 体験活動やアンケート結果をもとに、自分たちができる事は何かを考える。	・ 経験が少ない児童のために1, 2年生での体験活動を振り返る。 ・ 行ってみたいという気持ちが膨らむよう雰囲気づくりに努める。 ・ トンボ王国の人と協力し、楽しい体験活動を仕組む。 ・ アンケート結果から、多くの人に知ってもらいたいという課題意識へとつなげていく。 ・ アンケート結果を見て感じたことを整理し、課題意識を高めていく。	①ーア ①ーイ ③ーア

<p>○作戦を進めていくために、これから何をしていく必要があるか考える。(ガイド・ポスター等)</p>	<p>・子どもの活動意欲を高めさせるために、作戦名を考える。</p>	<p>⑤ーア</p>
<p>トンボ王国の情報を集めよう (8時間)</p>		
<p>○トンボ王国に行き、働いている人から話を聞き、施設や自然の様子を見学しながら、トンボ王国の魅力を探していく。</p> <p>○パンフレットや図鑑等で調べる。</p> <p>○集めた情報を共有し、トンボ王国のアピールポイントを決める。</p>	<p>・体験や話を聞くなかで、感想や驚き、疑問等をもとに追究できる課題を決めさせたい。</p>	<p>②ーア</p>
<p>ガイドの仕方を知ろう (10時間)</p>		
<p>○わかりやすく伝えるためのガイドの仕方を学ぶ。</p> <p>○ガイドをする上で、注意する事や工夫する事のポイントをまとめていく。</p> <p>○収集した情報と、ガイドの方法をもとに、ガイドの内容を考えていく。</p> <p>○ガイドブックの原稿に必要な事柄を整理・分類し、ガイドブックを作成する。</p>	<p>・ガイドの仕方を学ぶために、旅行添乗員の方をゲストティーチャーとして招く。</p> <p>・子ども達自身で、自分たちのガイドの仕方を評価できるように、「話し方・伝え方」「身振り・手ぶり」「心遣い」の3つの視点で、チェックポイントをまとめてさせていく。</p> <p>・どのような方法で表現すればよいか、相手や場面を意識しながら準備を行わせる。</p>	<p>⑦ーア</p> <p>②ーア</p>
<p>ガイドにチャレンジしてみよう (14時間)</p>		
<p>○中学生にトンボ王国のガイドを行い、中学生からアドバイスをもらう。</p> <p>○自分たちのガイドを振り返り、良かった所とできなかった所を話し合う。【本時】</p> <p>○中学生のアドバイスをもとに、ガイドの内容を改善し、練習をしていく。</p>	<p>・次の課題につなげるために、中学生に良い点と改善点についてアドバイスをもらう。</p> <p>・ゲストティーチャーに子ども達のガイドを見てもらい、必要に応じてアドバイスをもらうようにする。</p> <p>・トンボ王国の情報が不足していた場合には、目的に応じた手法で再度調べさせる。</p> <p>・トンボ王国の魅力を自然と語るができるように、練習を重ねるように促す。</p>	<p>④ーア</p> <p>⑦ーア</p>

<p>○ガイドのプロに、最終チェックを してもらおう。</p> <p>○前回のガイドの反省を生かし、ト ンボ王国でガイドを行う。</p> <p>○ガイドを行う対象や場所を考え る。</p> <p>○地域の人を招待し、トンボ王国を ガイドする。</p> <p>○自分たちのガイドを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに、自信を持ってガイドに取り組める ように、ゲストティーチャーに評価や確認を してもらおう。 ・今後、ガイドをする対象者や場所を考えるた めに、実際にトンボ王国へ行きガイドをさせ る。 ・再度アンケートを取り、作戦実行前後の変化 を捉えさせる。 	<p>⑧ーア</p>
<p>2年生に活動を引き継ごう (4時間)</p>		
<p>○次年度への引き継ぎとして、2年 生にもガイドを行う。</p> <p>○具同地区の一員として、地域に対 する思いを作文にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に対する思いをより高めていくために、 1年間の活動をふりかえらせる。 	<p>④ーア</p> <p>⑥ーア</p>

5 本時の学習（35/50時間）

- (1) 目標 中学生へのガイドをふりかえり、地域の人たちへのガイドに向けて、今後改善していく内容を考えることができる。
- (2) 準備物
- (3) 展開

学習活動 主な発問 (★)	学習活動への支援 (○) と評価 (◆)
1. 中学生にガイドをしたことを想起する。	○ガイドを行っている写真を掲示し、想起させる。
2. 本時の学習課題を確かめる。	○ガイドを行っている写真を掲示し、想起させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">よりよいガイドにするために、直したらよいことを考えよう</div>	
3. 2グループで実演し合い、それぞれのグループの課題を見つけていく。 (ピラミッドチャート)	<p>○様々な視点から改善点を見つけられるよう、中学生からのアドバイスの内容と、子ども達が気のついた課題を照らし合わせるようにする。</p> <p>○もらったアドバイスから、自分たちの班にとって重要な課題を焦点化させていくために、ピラミッドチャートを活用していく。</p> <p>○自己評価や中学生、他のグループの評価をもとに、内容や表現方法の見直しをさせる。</p> <p>○達成感が味わえるよう、様々な意見を集約し、即効性の高い内容（意見）を選択させる。</p>
4. 自分のグループにおいて、今後改善すべき内容を話し合い、まとめていく【グ】	◆ガイドを成功させるために、中学生やゲストティーチャーの考えやアドバイスを参考に話し合うことができる。7-⑦
5. グループで話し合った改善点を全体で交流する。【全】	○次時への見通しが持てるように、本時の学び合い（話し合い）を振り返る場を設定する。
7. 本時のふりかえりをする。	

6 板書計画